

Q1：食肉事業は 7 月～9 月に収益が上がっているイメージがあるが、今期第 2 四半期の営業利益が減益した要因と下期の見込みについて

養豚事業において、前期に夏場の気温上昇などが養豚での種付けや生産性に影響し、在庫が低下したため、第 2 四半期に一時的に出荷頭数を調整するなどの対策を行い収益が悪化したのが、下期には対策の効果が出て、出荷頭数は回復し、収益も改善できると考えている。

Q2：食肉事業における牛肉の仕入、販売及び国内の輸入牛の在庫状況について

消費者の節約志向もあり、需要が牛から豚や鶏へシフトし、牛肉の消費に明るさが見えない。海外では、北米の現地相場が上昇して需要が豪州へシフトしたが、当社は豪州に有力なパッカーを確保できている。国内の輸入牛の在庫状況は特にひっ迫した状況にはない。

Q3：今期の加工食品セグメントの営業利益計画の達成を見込む要因と下期の原料コストの見込みについて

Prima Next Project が期初では今期中の稼働開始を想定していたが、次年度へ延期となった事に加え、ベンダー子会社の今期の業績見込みを見直ししている。一方で、ベンダー子会社を除いた加工食品セグメントでは、販売数量は前年を上回り、価格改定も P B 商品の改定などで第 2 四半期より効果が出ており、下期も同じ傾向で推移できると想定している。加えて、下期の原料コストは買い付け時の為替水準などを考慮すると計画内で推移できると考えている。

Q4：来期の原料コストをどのように見込んでいるか。また追加の価格改定の可能性について伺いたい。

現在の為替は円安傾向で推移しており、仮に今後も円安が進行するのであれば原料などの製造コスト上昇が想定され、追加の価格改定を検討する必要も出てくるが、消費者や同業他社の動向も注視する必要がある。仮に価格改定を行うのであれば、販促キャンペーンなどで消費者に付加価値を感じていただけるように工夫をしながら実施していく。

Q5：「人時生産性」と「生産効率」の考え方について伺いたい。

人時生産性は一人当たりの 1 時間当たりの生産数量を示した指標で過去より数値を開示してきたが、商品構成で少量パック商品が増加するなどの変化や、更なる販売数量の拡大に対応できる生産体制の再構築を進めており、その影響で人時生産性が悪化している。一方で、生産効率は新たに設定した指標で、生産ラインの能力の活用度合を示しているが、ハム・ソーセージ、加工食品共に前年を上回り改善できている。

Q6：コスト競争力の強化に向けて、生産効率の改善などに取り組んでいるが、更なるコスト削減による収益改善は可能と考えているか？

生産効率の改善などコスト競争力強化に向けて引き続き取り組んでいく。加えて、今後の収益拡大に向けて、海外事業の強化に積極的に取り組んでいく。

Q7：親会社の説明会では親会社が設ける ROA 基準に達していないグループ会社は自助努力が必要との見解が出ていた。当社には何か要請が来ているか？また、親会社との関係に何か変化があるか？

ご質問の内容について当社へ要請は来ていない。当社は ROE10%以上を経営目標に掲げており、収益改善を図り、目標達成に向けて取り組んでいく。また、親会社との関係について変化は出ていない。

Q8：ベンダー事業に関して、取引先企業の経営体制の変化による施策への連動について

取引先企業に対して様々な提案を行っている。取引先から新たな施策が発表されており、今後も連携を強化しながら取り組んでいく。

Q9：フードサービス事業の強化に向けた取り組みについて

特にラーメン業態との関係に関して、取引先へ様々な提案を行い数量が拡大している。また、業務用専用商品の開発にも取り組んでいる。

以上